

第10回能代宇宙イベント 第6回口ケツト甲子園

初づくしの快挙

女子チーム参加・優勝／工業高校優勝

ロケットガール 世界へ挑戦

T
A
R
C
2
0
1
5

学生や社会人のアマチュアによる日本最大規模の口ゲット打ち上げ大会「第10回能代宇宙イベント」が8月15日から22日にかけて、

からパラシュートで降下、
指定時間を滞空し、無事生
卵を割らずに着地回収する
もの。指定値からの差の少
なさを競う。

んは、優勝の発表に驚きの声を上げた。「もう笑うしかない。優勝は絶対にないと思っていた。自分たちが優勝して申し訳ない気持ち

高まってきた。わくわくしている。外国に行つたことがないので、見たことのない風景にも期待している」

須田顧問は「2回失敗した時はモーム解散かと思つた」と苦笑いしながら、「口ケット

A black chalkboard with white Japanese handwriting. The text includes "セラミック", "セラミック", "セラミック", "セラミック", and "セラミック". Below the text are two hand-drawn diagrams of bell-shaped structures, each with a vertical axis and a curved top.



ない笑顔を見せ、「みなさん、応援よろしくお願ひします」す」と健闘を誓つた。

データ管理の役割を担う坂本さんは「口ケツトはあまり体験できることではないので楽しい。次の準備をしているうちに世界大会に出る、といふ気持ちも

学生や社会人のアマチュアによる日本最大規模のロケット打ち上げ大会「第10回能代宇宙イベント」が8月15日から22日にかけて、能代市浅内の「能代宇宙広場」で開催された。高校生によるモデルロケットの製作と打ち上げ技術を競う第6回ロケット甲子園は18日に行われ、東日本を中心にして、6校10チームが出場、大曲工Bチームが初優勝を飾った。同チームは日本代表として、来年開催される世界大会TARC2015の出場権を獲得した。県勢の優勝は3年連続。

からパラシュートで降下、指定時間を滯空し、無事生卵を割らずに着地回収するもの。指定値からの差の少なさを競う。

んは、優勝の発表に驚きの声を上げた。「もう笑うしかない。優勝は絶対にならないと思っていた。自分たちが優勝して申し訳ない気持ちもある」とコメント。「ものづくりが好きで、ロケットの組み立ては楽しいし、打ち上げが成功した達成感もある。不思議で意外と面白い。せっかくの優勝なので、世界大会に向けて頑張りたい。前回のミスはどんどん改良し、欠点のないロケットを作りたい」と屈託



緊張の打ち上げ準備

新型機の仕様について話し合う

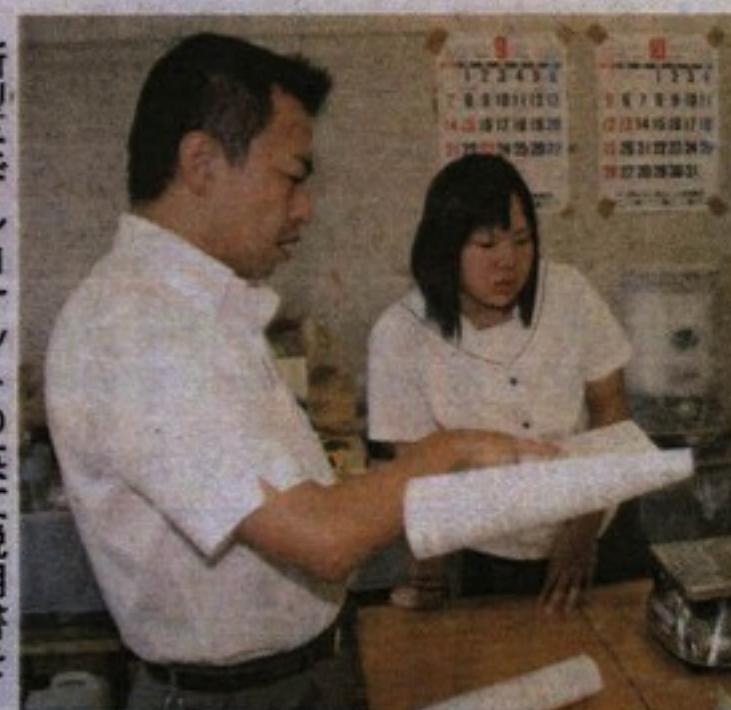
須田宏教論(4)は「ほとんどぶつつけ本番。シミュレーションが良かつた。パラシュートの大きさの調整が上手くいった」と振り返り、「女子チーム初優勝、工業高校初優勝と喜ばしい」と笑顔。「気象条件もあり、開けてみないと分からぬでやろうと話していた。実験からデータを取り、修正の繰り返し。常に改良・改善を目指すことが大事」と話した。

高まってきた。わくわくしている。外国に行つたことがないので、見たことのない風景にも期待している」と微笑んだ。

須田顧問は「2回失敗した時はチ
ーム解散かと思つた」と苦笑いしながら、「口ケット
を自分たちの子どものよう
に感じてているのか、責任感
が強い」と評する。「やつ
てみせて、やらせてみて、
なぜやるのか、根本的な点
から説明」し、メンバーの
意思統一を図ると、作業も
スムーズになり、「伸びて
きたことを実感した」とい
う。「自分もメンバーの一
員だと思っていい。」

現在は世界大会のレギュレーションを確認しながら、軽量化を主として新型機の検討が始まっている。新型機は素組みの重量が約650グラム。大会機の約585グラムと比較しても軽量化が重要なポイントだが、強度やバランスを確保しつつ10%の軽量化は大きな課題。

デザインも話し合い、世界に向けた日の丸、県章、大仙市と能代市の市章、校章を描くことなどを決定。各国代表のプレゼンテー

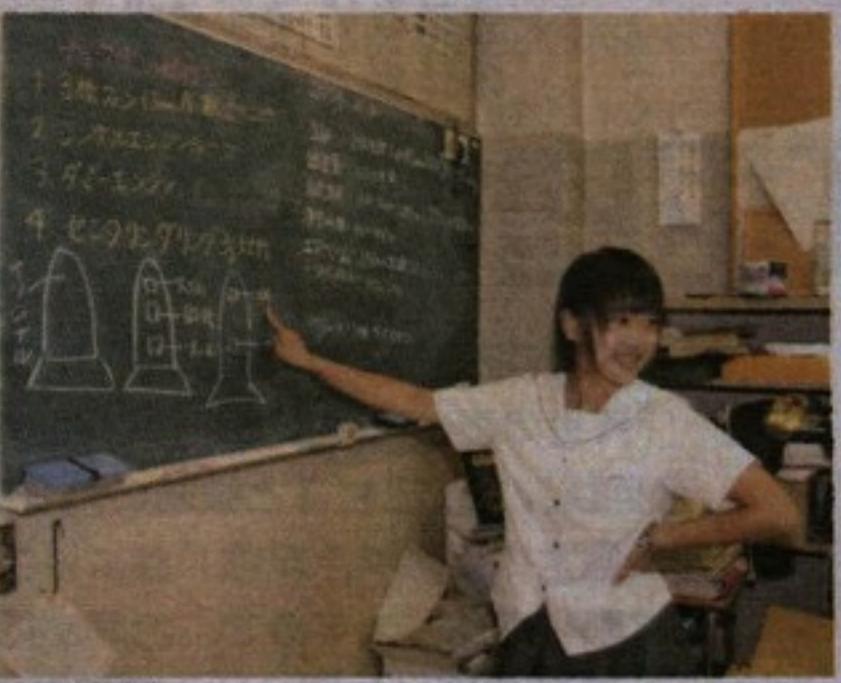


大曲工ロボット同好会
須田 宏 顕門

A black and white photograph showing a man in a light-colored shirt and a woman in a white shirt looking at a menu board. The menu board is a vertical chart with columns of Japanese text and small red numbers above them. The man is on the left, looking towards the woman, who is on the right, looking down at the board.

現在は世界大会のレギュレーションを確認しながら、軽量化を主として新型機の検討が始まっている。新型機は素組みの重量が約650グラム。大会機の約585グラムと比較しても軽量化が重要なポイントだが、強度やバランスを確保しつつ10%の軽量化は大きな課題。

デザインも話し合い、世界に向けた日の丸、県章、大仙市と能代市の市章、校章を描くことなどを決定。各国代表のプレゼンテー



は英語力を求められ、口ケット関連の読も進めるなど、ことは山積する。問は「実験と結果を考察することを繰り返すことで、客観的にものを考える力がつく。物には、目標と制約の中で設計者の思想が反映されていく。生徒の進路は必ずしも宇宙に関わることではないが、大会を通じて学んだことは、どの分野に進んでも生きる」と語った。